

大府市議会

無所属クラブ 議会レポート

2024
SUMMER

夏

YOUR VOICE

あなたの声が、まちを動かす力になる。

党籍なし完全無所属

大府市議会議員 宮下しんご



6月定例会 **一般質問** 地域公共交通のこれから—未来を見通した対策を果敢に

◆地域公共交通計画は第2期へ

令和2年度にスタートした「大府市地域公共交通計画」がいよいよ今年、最終年度を迎えています。6月定例会の一般質問では、新型コロナの影響を事前に盛り込むことが困難であった策定当時の状況(国内最初の感染者が確認されたのは令和2年1月16日)に鑑み、計画を着実に進めつつ、コロナ禍への柔軟な対応とどう両立させたのかを確認するとともに、**新たな社会の変化をどう捉えているか**という点についても、市の見解を尋ねました。

昨今の具体的な懸念事項としては「2024年問題」(運輸・運送業における運転手不足の深刻化)に焦点を当て、**2種免許取得費用やタクシーアプリ導入経費の助成を実施した佐賀市の補助事業を紹介**しました。このほか、本市にも参入しているカーシェアサービスが地域公共交通全体にもたらし得る好作用について、過去の研究事例を示しながら論じ、**民間のEVカーシェアサービスを公用車として活用する自治体が増えつつある現状**を伝えました。



◆社会変化で顕在化した様々な問題

Q 施策の改善にどう生かしたのか？

A デジタル活用の必要性の高まりに対応するため、交通系ICカード決済を導入し、ゼロカーボンシティの実現に向けてEVバスを配備するなど、社会が大きく変化する中で地域公共交通の環境改善を行ってきた。

◆「2024年問題」への対処

Q 現行計画で想定されていなかった新たな懸念等をどう整理し、どう向き合っていくのか？

A 全国的な人口減少や高齢化の進行、加えて、働き方改革の導入に伴う就業形態の変化や人材不足の課題の顕在化など、地域公共交通を取り巻く環境は新たな局面を迎えていると感じている。交通事業者の人材確保の取組に協力し、ふれあいバスのさらなる充実において綿密に連携を図っていく。

◆カーシェアリングと地域交通

Q カーシェアリング等のシェアリングエコノミーは今後、地域交通体系の中でどのような役割を果たしていくと考えるか？

A シェアリングエコノミーは徐々に浸透していくものと捉えている。今後

も地域を支える持続可能な地域交通体系の構築をめざして、シェアリングエコノミーなどの新たなサービスの情報収集に努め、既存交通を補完する移動支援について調査研究していく。

◆公用車カーシェアリングについて

Q 本市でも公用車カーシェアリングを導入することについての見解は？

A 本市の公用車は、一部リース契約のものを除いて、購入による直接所有が基本。夜間や閉庁日はほとんどの車両が使われていない状況で、職員が使用しない時間帯にカーシェアリングとして利用していただくことは可能と思われるが、導入にあたっては課題もある。所有形態の見直しなど、慎重な判断が必要であり、他自治体の事例を調査研究していく。

NOTICE

無所属クラブ

宮下しんご × いいお祐介

タウンミーティング

(※事前申込は不要です)

7/27 (Sat) 14:00～

Allobu おおぶ文化交流の杜
2F 会議室1・2

一般質問で2回にわたり提言してきた
“カーボンニュートラル”推進の施策が
一般会計補正予算(第3号)で実現しました

YOUR VOICE SPECIAL 特集

一般質問の“その後”

木曽町・王滝村とのWin-Winの連携は また一步、新たなステップへ。

©photoAC

◆J-クレジットってナニ？

6月定例会に上程された一般会計補正予算(第3号)の中に、「ゼロカーボン推進事業」予算として、権利購入費82万5,000円が盛り込まれました。本市が「水源の森林の保全・育成に関する連携協定」を結んでいる長野県木曽町と王滝村が創出するJ-クレジットを購入する予算で、市の公用車が排出する1年分の Co^2 (50t/ Co^2)をこれによって相殺(オフセット)することができます。このような仕組みを「カーボンオフセット」と言います。

J-クレジットとは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用による温室効果ガス排出削減量、または適切な森林管理による吸収量を国が認証したものです。 Co^2 に価格をつけることで行動変容を促す「カー

ボンプライシング」の一種で、本市が購入するクレジットの売上は、木曽町と王滝村のさらなる森林保全、地域活性化に充てられます。両町村のように**広大な森林を抱える中山間地域の自治体にとって、森林の適切な管理に必要な財源の確保は慢性的かつ深刻な課題**であり、本市が今後、進めるとしている市内事業者へのマッチングにも、大いに期待したいと思います。

◆自治体間連携によるカーボンオフセットを一般質問で提起

宮下は、令和2年12月定例会の一般質問で、**本市が交流を結ぶ中山間地域の各自治体を念頭に、「自治体間連携によるカーボンオフセット」を大府市議会で初めて提起**しました。その後も無所属クラブとして、J-クレジット

の現状や課題等に関する政策研究を続け、**昨年1月に木曽町、その半年後の7月には王滝村で、それぞれ会派の視察調査を実施**しました。

そして、令和5年9月定例会の一般質問で、「J-クレジット購入による市内企業のカーボンオフセット促進」について、見解を改めて質し、そこで初めて、「**民間事業者が王滝村および木曽町のJ-クレジットを購入し、カーボンオフセットに利用することは、様々な脱炭素経営の手段の一つとして有効**」との前向きな認識が示されました。 Co^2 吸収源に乏しい産業都市のわがまち、広大な森林を守り続けてきた木曽町と王滝村**新たな取組**により一層、互いに相手の助けになることで、**友好と連携がさらに深化**していくことを心から願っています。

